

令和6年度スイッチON磯子地区別計画推進発表会 報告書

地域の活動を知り、今後の地域活動の参考にしていただくことを目的に、スイッチON磯子地区別計画推進発表会を開催しました。毎年度3地区ずつ発表しており、今年度は磯子地区、上笹下地区、杉田地区に、地区別計画に沿って広く活動を進めている様子を発表していただきましたので報告いたします。

1 開催概要

日時：令和7年3月4日（火）14時00分～15時45分

会場：磯子公会堂

2 参加者数

187名（自治会町内会役員・民生委員児童委員・保健活動推進員等150名、事務局37名）

3 内容

（1）地区の取組発表

<磯子地区>

発表者：磯子地区連合町内会 山口副会長、磯子地区福祉保健計画推進委員会 内藤副会長
磯子山手町内会自治会 氏家会長

昔からの取組として「ふれあい体操」「ふれあいサロン」「ユーアイ昼食会」による繋がりづくりが紹介されました。また、重点取組として「ふれあい運動会」「あいさつ運動」があり、あいさつ運動では、のぼり旗を作成し、一体となって地区内での周知活動に取り組んでいることが発表されました。



<上笹下地区>

発表者：上笹下連合自治町内会 金子会長、スイッチON磯子上笹下地区推進協議会 大蔵副会長
上笹下連合自治町内会 迫田副会長、上笹下地区社会福祉協議会 佐野事務局長

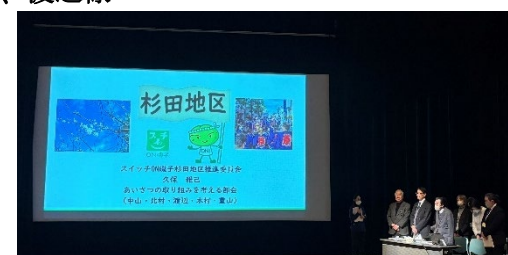
神社をめぐる「六ヶ町めぐりスタンプラリー」や、畑を耕すところから収穫まで行う「土とのふれあい」など、地区の歴史や自然を活かした事業が紹介されました。「わいわい食堂」や「栗木おひな様の会」では、誰もが気軽に地域活動に参加できるきっかけとなり、顔見知りが増えていく様子が発表されました。



<杉田地区>

発表者：スイッチON磯子杉田地区推進委員会 久保会長、
あいさつ部会メンバー 北村様、木村様、重山様、中山様、渡辺様

地区全体で取り組むために推進テーマを設定して課題解決の検討を行う、計画推進体制の発表がありました。テーマ設定により、防災リーフレットの作成・全戸配布や、子育て世代とのコミュニケーションに繋がっており、普段関わりのない世代や障害者について考えるきっかけになった、との声も紹介されました。



(2) パネルディスカッション

テーマ：地区の取組の中で大切にしていること・工夫していること

ファシリテーター：愛知東邦大学人間健康学部教授 西尾 敦史 氏

登壇者：発表した3地区の方々

参加者からの質問をもとに西尾先生が登壇者とやり取りし、まとめていく形で進めました。

磯子地区 あいさつ運動に関する質問があり、顔見知りの関係を築くために全戸訪問を開始した経緯や、そのおかげで火事の際に迅速な避難ができたという成果が語られました。また、外国人の自治会加入についても質問があり、まず地域活動に参加して興味を持ってもらい、その次に自治会加入に繋がる、というお話がありました。

上笹下地区 多くの関係者をまとめるのは大変ではないか、という質問があり、役割分担は慣れている方を交え各々が参加しやすい役割を調整している、また、作業を一緒にすることで親しくなり多くの関係者がまとまる良い機会となっている、とコメントがありました。

杉田地区 「あいさつマスタースタンプラリー」について質問があり、各自治会館をスポットに設定して知ってもらうことや、二次元コードから地図を表示させるという子育て世代に向けた工夫が紹介されました。

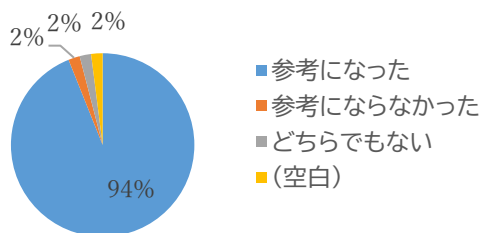
また、地域活動に出て来られない方へのアプローチ方法に対しては、地道な声かけのほか、若い世代向けの二次元コードによる申込や、移動が困難な高齢者に対する自治会スタッフの送迎やタクシー会社と連携したお買い物ツアーが挙げられました。

最後に西尾先生から、「地域活動に参加してもらうためには、同じ地区の一員として誰でも参加できる通いの場が重要である。3地区における繋がりづくりの工夫を、ぜひ今後の計画の推進に活かしていただきたい」とまとめがありました。

4 アンケート結果

(1) 各地区の発表は今後の活動の参考になりましたか（回答数：99）

アンケート(1) 回答結果



(2) 発表の内容についての感想や意見等

- ・活動が工夫されていると感心し、地域のために取り組んでいる姿が素敵だと思った。
- ・地区の特性を活かす、多くの地域住民に参加・協力の呼びかけ、地道だが大事だと思った。
- ・どこの地区も活発に活動されていて刺激を受けた。生き生きと地域で生活するためにみんなの力や支援の大切さを感じた。

(3) パネルディスカッションの感想や意見等

- ・実際にあった事例、工夫、スマホの利用等が参考になった。
- ・各地区の考え方を詳しく聞けて良かった。社会～地域のこれからの活動のヒントになった。
- ・若い世代へのアプローチ、高齢者が参加しやすいように工夫をしている苦労がどの地域も課題だと感じた。

報告：磯子区福祉保健課事業企画担当
(磯子区地域福祉保健計画 事務局)